

# あかるく かしこく たくましく

令和5年5月26日 No. 10 文責：校長 佐野紳二

## 知識・技能も大切です 家庭学習へのご協力を改めてお願いします

これまでの学校教育は、たくさんの知識・技能の獲得と、それらを正確に再現できることに重点を置いて指導がなされてきたこと、そして、現在では社会の変化に伴い、「思考力・判断力・表現力」が重視されるようになってきたということをお伝えしました。

このように書いてくると、「知識や技能を獲得することには意味がない」と受け止められてしまう恐れがありますが、決してそうではありません。思考力とは「今まで学習したことや自分で調べたことなどを比較したり、分類したり、関連づけたりしながら、これまでに経験したことの無い問題を解決していく力」のことです。

(学校通信 No.9 を参照) 要するに、自分の中にある「もとなる知識や技能」がなければ、それらを「比較・分類・関連づけ」することはできないのです。ですから、「基礎基本となる知識・技能の習得」は必要ないわけでも、軽視されているわけでもありません。ただ、これまでは一つ一つの知識や技能を「どのように使うか(=比較・分類・関連づけにより、未知の課題の解決を図っていくか)」が(どちらかというと)軽視されてきたということなのです。



「知識・技能」に加えて、「思考力・判断力・表現力」が重視されるようになったことを知ることで、学校では授業のあり方が従来とは変わってきています。(「主体的・対話的で深い学び」と言われています) 実際に行われている授業も、従来行われてきた「講義型」の授業から、対話や調査、表現などを重視した授業へと変わってきています。しかも、学習する内容(獲得を求められる「知識・技能」)や量はこれまでと変わりません。(むしろ、外国語やプログラミング学習など、新しい内容が

追加された分、増えています)

我々教職員も、子どもたちの「思考力・判断力・表現力」を育成する授業をどのように仕組んでいくか、毎日研究しながら授業を行っています。保護者の皆さんも、子どもたちの学習に興味を持っていただき、時には一緒に教科書を読んだり、算数の問題を一緒に考えたりしていただけるとありがたいです。また、知識・技能を定着させるためには、どうしても「反復練習」が必要になります。小笠原小学校では毎年、学期に1度ずつくらい「家庭学習週間の取組」を行っています。保護者の皆様には、家庭学習の習慣の定着にも力を貸していただけるとありがたいです。



学力の話は今回でひと段落とさせていただきます。もしかしたら、全国学調の結果が出る9月頃に、学力について再度書かせていただくかもしれません。

### 前号のクイズの答え

二人の父親と二人の息子というのは、実は「祖父-父-息子」という、血のつながった男性だった。

祖父は自分の息子(父)に1500円を与え、父は息子に、もらった1500円の中から1000円を息子に与えた。したがって、おこづかいの増減分は、二人合わせて1500円にしかならない。

## 風薫る五月 季節の移り変わりを感みましょう

今年の5月は天候が不安定です。先日は山梨県でも最高気温が30℃を超える真夏日があったり、そうかと思えば雨が降ると気温が下がり、3月下旬並みの気温の日があったり…地球温暖化の影響かな？なんて思う日が度々あります。そうはいつても、湿度が低く、涼しい風が吹き、花粉も飛び終わった今の時期は、1年のうちでも最も過ごしやすい時期だと思います。季節の移り変わりを表す「二十四節季」では、今ごろの時期を「小満（しょうまん）」と言います。小満とは「万物が次第に成長し天地に満ち始める頃。秋にまいた麦に穂がつく頃にあたり、その出来具合に『少し満足する』、ひと安心する」といった意味なのだそうです。

私が好きでよく見るテレビ番組のひとつに、TBSの「プレ〇ト」という番組があります。人気コーナーの俳句査定では、俳人の夏井いつき先生が、芸能人のみなさんが作った俳句を「才能あり・凡人・才能なし」と採点し、添削をしています。その中で夏井先生がよく、「季語を大切にする」なんて言っているのですが、この時期の季語にはどんなものがあるか、歳時記を使って調べてみました。すると、代表的なものには、以下のようなものがありました。



- 【時候】卯月 五月 小満 初夏 清和 夏浅し 夏の朝 夏めく 薄暑 麦の秋 立夏 若夏
- 【天文】卯月曇 卯の花腐し 筍流し 茅花流し 迎へ梅雨 麦の秋風
- 【地理】青葉潮 卯波 代田
- 【生活】柏餅 更衣 代掻く 新茶 筍飯 茄子植う 菜種刈 身欠練 麦打 麦藁 武者人形
- 【行事】愛鳥週間 御柱祭 子供の日 母の日 夏場所 青葉の簾
- 【動物】蜘蛛の罫 早苗蜻蛉 鹿の袋角 巢立鳥 鷹の埒入 初鯉 松蟬
- 【植物】あやめ 苺 瓜の花 カーネーション 烏麦 桐の花 筍 新緑 薔薇 バナナ

わずか十七音で自分が伝えたいことを表す俳句は、言葉の持つ意味や背景を理解していないと、作者が伝えたいことを理解することができず、とても難しいものです。でも、わずかな季節の移り変わりをさまざまな季語で切り取り、助詞や助動詞の選び方で自分の心情を十七音の中に反映させる日本人の繊細さは、少し勉強をして言葉の使い方などが分かってくると、その凄さの一端が伝わってくるような気がします。

少しでも時間を見つけて、俳句や言葉について勉強してみたいなあ…テレビを見ながらいつも思っている私です。（でも、一向に実行に移せないのも私です） 最後は、初夏の有名な俳句で。

葉桜の 中の無数の 空さわぐ 篠原梵

意味：葉の重なりに空が切り取られ無数の空が出来ている。葉が風にそよぎ、まるで空が騒いでいるようだ。

子の髪の毛の 風に流るる 五月来ぬ 大野林火

意味：子どもの髪が風になびいているのを見て、五月が来たんだなあという発見をした。

不二ひとつ うづみ残して 若葉かな 与謝蕪村

意味：富士山だけを埋め残して、あとはすべて若葉で覆いつくされている。

白牡丹 といふといへども 紅ほのか 高浜虚子

意味：白い牡丹にほのかに紅が差している。（ことを驚いている。）

うごかざる 一点がわれ 青嵐 石田郷子

意味：草原に吹く青嵐の中で動かないのは私だけ。

